



文化交流は、 人と人との未来を開く。

中川正輝パリ日本文化会館長、藤田安彦北京日本文化センター所長、中村裕二メキシコ事務所長、鈴木勉マニラ事務所長の4人が2005年を振り返り、その成果とともに考えたことなどを語り合いました。

日本文化への関心は、ますます高まる一方ですね。

——2005年度の各地域の動きには、
どんな特色がありましたか？

中村 メキシコでは、ここ数年で日本との外交上の関係で新たな展開がありました。

両国間に*EPA（経済連携協定）という経済協定が2005年に結ばれ、貿易や投資関係、そして人の交流が発展したのです。この協定にともない、文化交流を含めた幅広い関係を発展させようという動きがあり、メキシコ事務所が大きな文化交流事業に取り組むことになりました。

中米は文化的にも日本と遠い存在です。両国を徐々に近づけていくという意味で、大きな成果があったと思います。

鈴木 国際交流の面でいうと、中国や韓国に比べて、フィリピンをはじめとする東南アジアは注目度が低いといえますね。裏を返せば、日本との関係が比較的良好だということです。この関係をさらに発展させていくためにも、継続的に文化交流をしていくことが重要といえます。

フィリピンも日本とEPAを締結しまし

た（※2006年9月）。中村さんがおっしゃったようにこの存在は大きいですね。EPAによって人の流れの量と質ががらりと変わるでしょう。

特にフィリピンの場合、今まで単純労働に就く人が多かったのですが、介護士や看護師という日本人の生活に密着するような職業が増える可能性があります。こうした時期に現地で文化交流の仕事ができることは、本当にやりがいがあると思っています。

藤田 中国では今、空前の日本語ブームで、日本語能力試験を受験する人の数が驚異的に伸びています。

日本企業の中国への進出も要因だと思うのですが、村上春樹氏の小説がブームになっていることや、宮崎駿監督の作品をはじめとするアニメ、また、日本のゲームが若者たちに大きな影響を与えて日本語を学びたいという気持ちを喚起させているのだと思います。この勢いが止まらない状態ですから、現在、年に1回しか行われていない日本語能力試験を年2回にするべきだと主張しつつづけています。



フランス人は、
現代文化と伝統文化の
両方に目を向けています。

パリ日本文化会館
中川 正輝 館長

三井物産入社。35年にわたる商社マン生活のうちフランス勤務は11年、米国勤務は4年間。1994～2001年にはフランス三井物産社長を務め、2期にわたって在仏日本商工会議所会頭を歴任。1998年フランス共和国より国家功労勲章（シュバリエ）を受賞。2004年7月にパリ日本文化会館に赴任。2005年4月より現職。

その一方で、チャイナ・デイリーが中国の若者に実施したアンケートで、80%が「日本を知らない」と答えているのも現状です。都市部だけでなく、地方に向けて日本の文化を発信していく必要性を痛感しましたね。

では、逆に日本を知っている人に「どうやって知りましたか？」と聞くと、「インターネットを通じて」と答えるのです。中国では、自分の意見を述べる場として若者を中心に1億もの人がブログを制作していると言われています。13人に1人がブログで発信している国は、他にはないでしょう。こうした若者のうねりに対してどう日本文化を発信していくか、ひとつ

セルバンティーノ国際芸術祭に、招待国として招かれました。

——さまざまな変化や動きの中で、どんな事業を展開したかをお教えください。

中村 メキシコでの大きな事業のひとつが、セルバンティーノ国際芸術祭です。昨年で33回目を迎えたセルバンティーノ国際芸術祭は、世界遺産にも指定されている美しい都市グアナフアトで、世界中からアーティストが参加して行われる中南米最大の文化の祭典です。

メキシコはスペインの植民地だったこともあって、ヨーロッパ的な伝統が息づき、大小様々な規模の芸術祭を政府などの公的機関が経済的にサポートしています。

セルバンティーノ国際芸術祭も同様で、一部のお金持ちだけでなく、幅広い層の人たちが楽しめるように料金設定されています。そのため、この国際芸術祭には、メキシコ国内はもちろん、他の国からも大勢の人が集まります。

毎年、2つの国と州を招待国と招待州として指定し、その国や州の一流の芸術を数多く紹介することが特色です。2005年度は、日本が招待国のひとつになったので、ジャパンファウンデーションが全面的に協力しました。

インパクトが強かった舞台は「維新派」という演劇とダンスを混ぜた独自のパフォーマンスを行うグループの公演です。この芸術祭の事務局長が斬新な作品を希望していたので、このグループを紹介

の鍵になると思います。

中川 フランスと日本の関係は歴史が長く、2008年は日仏修好通商条約が締結されてから150周年にあたります。また、2007年はパリ日本文化会館が建設されてから10周年にあたり、いろいろな行事が控えています。

私が館長の職に就いてから1年半だけを見ても、フランス人の日本の文化への関心度は、ますます高まる一方ですね。

世界中で日本のポップカルチャーが注目されていますが、フランス人は、現代の文化と伝統的な文化の両方に目を向けています。

しました。ねらいどおり、大きな反響を呼びましたね。

團伊玖磨氏が作曲したオペラ「夕鶴」では、日本人による演出で、メキシコ人のオペラ歌手と子どもたちが演じました。オーケストラもメキシコ人で、両国共同制作です。

また、舞踏家の笠井勲氏のソロ公演や、邦楽を現代風にアレンジした東京藝大出身の女性グループ「りん」の演奏も行いました。

ロックバンド「MIYAZAWA-SICK BAND」と、太鼓のグループ「悟空」は野外劇場で、約7,000人ものお客様を前に公演しました。

終了後、セルバンティーノ国際芸術祭事務局の方が「こんなに素晴らしい新聞の評を得たことがない」と喜んでいましたね。

鈴木 マニラ事務所は、自前のホールがないので劇場や大学、ショッピングモールなどでイベントを実施しています。

再来年、日本とフランスが通商条約150周年を迎えるというお話がありました。2006年は日本とフィリピンとの国交回復50周年にあたります。その周年事業を1月から3カ月間実施しました。

1月は「トラッドジャパン」をテーマに、日本から太鼓のグループを招いたり、能の舞台を行ったり、日本の伝統的な人形展を行ったりしました。2月はポップカルチャーに焦点をあて、3月はコラボレーシ



中国メディアの主演はインターネット。
文化交流の方向性は
変わりつつあります。

北京日本文化センター
藤田 安彦 所長

オムロン株式会社中央研究所入社後、フィリピン、シンガポール、台湾などの海外勤務を経て、中国で大連、上海、北京など合計12年勤務。中国では現地工場の設立・運営をはじめ、「オムロン中国教育基金」など社会貢献活動を担当し、1998年にはオムロン北京事務所首席代表。2004年7月より現職。

※EPAって何？

「Economic Partnership Agreement」の略で、経済連携協定のこと。物品の関税を撤廃する自由貿易協定(FTA)を含む概念で、知的財産や人的交流、サービスなどの自由化による域内の協定です。

ョンをテーマにして、国際共同制作のイベントを開催しました。

特筆すべきは2月のイベントです。ポップカルチャーで最も重要な要素は、インパクトです。なるべく多くの人々の心にメッセージをまっすぐに届けなければなりません。そこで、絶えず大勢の人々で賑わうショッピングセンターを会場にしました。

しかしフィリピンは、いまだ政情が不安定です。日本から「コア・オブ・ソ

ウル」を招いてポップス・コンサートを実施した際には、ちょうど運悪く“非常事態宣言”が発令されていて、実施が危ぶまれました。

最終的には、万全のセキュリティー対策を整えた上で実施しました。多くのJポップファンの後押しでコンサートは無事成功し、政治の世界とは一線を隔した文化交流の力を実感しました。

日本の漫画の原点は、お化けや妖怪なのです。

中川 パリ日本文化会館では、テーマ性をもった3つの展覧会を開催しました。ひとつは伊万里展です。16世紀の末に豊臣秀吉が朝鮮半島に攻め入り、朝鮮から陶工を九州に連れてきました。ここから生まれた伊万里焼をフランスやドイツの貴族階級が好んだために、輸出が開始されたわけです。そして、伊万里焼を目にしたヨーロッパ人が今度は自分たちで同じような磁器を創りたいと思い、マイセンの陶磁器ができました。こうした歴史の流れをテーマにした展覧会を行ったのです。

次に開催したのは、江戸末期から明治にかけて、日本の浮世絵がいかにかフランスの印象派の画家に影響を及ぼしたかをテーマにした「広重 名所江戸百景」展です。歌川広重の名所江戸百景の絵を会場にすべて並べまして、壮観でした。

その次は、世界中で日本の漫画がもてはやされていますが、その原点がどこにあるのかをテーマにした展覧会です。様々な漫画作品を見ると、日本のお化けとか妖怪にゆきつくことがわかります。そこで「妖怪～日本のお化け図鑑～」というタイトルにしました。

この展覧会には幅広い年齢層の方々が訪れ、中でも小・中学生や高校生が多く、小学生は団体で見に来ていただきました。お子さんを連れのお母さんも目立ちましたね。

伊万里展、妖怪展には、それぞれ1万8千人ものの方々が集まりました。

2005年度を振り返りますと、伝統的な文化と現代的な文化をうまく組み合わせ、フランス人の興味をひきつけることが

できたと感じております。

もちろん、展示だけではなく、講演会や演劇、能、狂言、コンサート、映画の上映も行いました。講演会ではノーベル賞作家の大江健三郎氏をお招きしました。パリ日本文化会館は、劇場、図書館、映画館、レセプションルーム、お茶室など、多彩な空間が融合した総合的文化ショーウィンドウといえますね。

藤田 中国では2005年から「留華ネット」をスタートさせました。これは中国の各大学に留学している日本の青年たちのネットワークです。北京や上海など大都市だけでなく遠く内モンゴルまで日本人留学生はいます。

留学生たちの代表に集ってもらい、「私たちがどんな活動をしているかを多くの中国の人たちに知ってほしいのです。ジャパンファウンデーションの文化交流のお手伝いをしていただけませんか」とお願いしたら、みんなの目が輝いたのです。

学生たちは意欲的に活動に取り組んでいますね。彼らは自分たちの支部もっていますから、その活動が各地に広がり、現在では中国のたくさんの日本人学生たちが私たちジャパンファウンデーションの活動の担い手になってくれるわけです。

彼らは帰国して就職活動する時に、自分の名前が記されたジャパンファウンデーションの名刺を面接官に見せて、中国でこれまで行ってきた国際的なボランティア活動の有意義な体験をアピールできるのです。

もうひとつの大きな成果は、中国の多くの日本企業が、ジャパンファウンデーションの存在を知ってくればじめたことです。



在日フィリピン人に対する文化交流事業も考えていきたいですね。

マニラ事務所
鈴木 勉 所長

1986年に国際交流基金入社。本部では日本研究・舞台芸術分野の仕事でアジア関係の仕事を担当。海外ではバンコクおよびジャカルタ日本文化センター勤務。社内公募により2005年5月より現職。

文化事業のスタイルは、進化しつづけています。

——日本企業の中国での社会貢献活動のアンケートに協力したことがきっかけですね。

藤田 ええ。私たちの実績が急に注目を浴びることになりました。

中国各地で反日デモが起きる中で、中国日本商會が、日本の企業がいかにか中国に対して社会貢献をしてきたかを中国の人たちに知ってもらおうとしました。そのために北京だけで600社にアンケートを取り、その結果を発表することにしたのです。ジャパンファウンデーションは、アンケート調査のお手伝いをさせていただき、企業間を何度も往復しました。

まとめたデータは雑誌『遠近』^{をちこち}をはじめNHKなどのマスコミにも取り上げられました。これからは、もっともっと私たちの活動や事業の内容をアピールしていきたいですね。

——最後にジャパンファウンデーションの活動によって、国境を越えた日本人と海外の人々との文化交流は、どのように変わってくると思いますか？


中村 中米では、交流の規模は欧米やアジアに比べると小さいのですが、日本に対する関心は共通するものがあると思います。メキシコでも最近では、日本語学

習者も増えています。漫画やアニメを始めとするポップカルチャーも人気ですね。両国の距離をさらに縮めていくことが今後の課題です。

鈴木 在日フィリピン人は今約20万人で、中国、韓国、ブラジルに次いで第4位です。日本語を話せる人は、学校で日本語を学んでいる人以外にもたくさんいるのです。日本にいる外国人に対しての文化交流事業をもっと展開していけたらと思います。

中川 パリには、世界各国から若い芸術家が集まってきています。ひとつ例をあげると、パリにあるエコール・ノルマル・ド・ミュージックという音楽学院には1,200人の学生がいて、その6分の1が日本人です。こうした音楽学院を出て、プロで活躍している日本人にお願いして、定期的にミニコンサートを開くことも企画しています。

鈴木 みなさんのお話をうかがうと、海外の日本人や日系企業と力をあわせて事業を展開したり、あるいは日本にいる外国人たちに事業に参加を呼びかけたり、事業のスタイルがどんどん進化しつづけているのがわかります。

いろいろなパートナーといっしょに日本の文化を発信し、海外の文化を知ること、ジャパンファウンデーションの可能性はかぎりなく広がっていきますね。 



日本と中米との距離を近づけているのは文化交流です。

メキシコ事務所
中村 裕二 所長

1989年に国際交流基金入社。本部では人物交流、舞台芸術、企画評価分野を担当。海外ではロンドン事務所、パリ日本文化会館に勤務し、2004年から現職。



写真撮影：高木あつ子